

先行事例の紹介およびメリット・デメリット

施設一体型 「大阪府箕面市立とどろみの森学園」

概要

- ・ 平成20年4月 新設開校
- ・ 児童・生徒数 138人

内容面の特徴

- ・ 4・3・2制(前期・中期・後期)
- ・ 小・中学校教員の共同授業の展開(図工、美術、体育、英語)
- ・ 小学校高学年の教科担任制(社会、理科、算数、音楽)
- ・ 9年間の一貫カリキュラム(文部科学省研究開発学校)
「コミュニケーション科」「とどろみタイム科」「英語活動科」

施設面の特徴

- ・ 1～4年教室はオープンスペースで、5～9年はガラスの壁で廊下と教室が仕切られている
- ・ ワンフロアに全学年の教室が配置され、異学年が日常的に交流できる
- ・ 1階のオープルームや図書室で全児童・生徒が一緒に過ごすことができる



施設一体型のメリット・デメリット

メリット

- ・ 新設教科や重点科が設定できる。
- ・ 授業時間以外での異年齢交流活動が活発になる。

デメリット

- ・ 校舎の新設や改築などの整備が必要となる。

先行事例の紹介およびメリット・デメリット

施設分離型 「東京都三鷹市立にしみたか学園」

概要

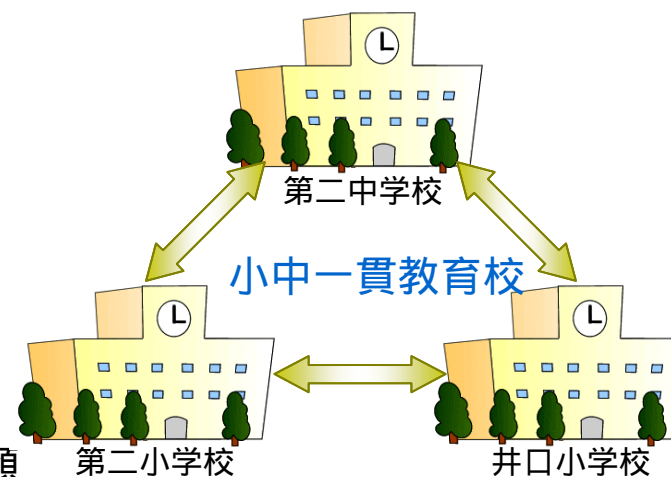
- ・ 平成18年4月 開校
- ・ 第二中学校 生徒数 530人
- ・ 第二小学校 児童数 769人
- ・ 井口小学校 児童数 510人

内容面の特徴

- ・ 6・3制
- ・ 全教科の一貫したカリキュラム - 文部科学省学習指導要領をもとに配列を組替、小学校(学年版)・中学校(教科版)を独自に作成
- ・ 「生き方・キャリア教育」を設置

運用面の特徴

- ・ 授業サポート、キャリア教育など
- ・ 学園名・学園歌・学園旗の公募決定



施設分離型のメリット・デメリット

メリット

- ・ 小小連携が活発になる。
- ・ 既存の校舎を利用できる。

デメリット

- ・ 交流のためのコーディネーターが必要となる。
- ・ 立地条件により交流方法や回数が制限される。